

中津川市総合計画審議会

第5回産業部会要旨

平成25年11月18日(月)

午後3時00分 開 会

部会長あいさつ

(岡山部会長) 急遽全体のスケジュールの中で開催する必要があった。のちほど10月31日の報告も兼ねて、部会の意見の集約をしたい。
市民アンケート、グループインタビューの説明の前に31日の報告をお願いしたい。この日私は欠席だったので、浅井副部会長に報告をお願いします。

1. 10月31日開催の「三役・部長会・副部長会会議」の報告

(浅井副部会長) 31日の会議の結論は、各部会が出した将来都市像をもとに、そのあとどう進めるかという議論がされ、それをもとに事務局主導の下でコンサルに将来都市像の構想を図柄にしたようなものや施策案の体系図を描いてもらい、それを部会で漏れや齟齬がないかを確認したうえで、審議会の全体会に持っていくことで合意した。

誰が作業をするかで議論となり、行政が考える課題と離れて、あるべき姿から課題をリストアップして全体の構想をまとめたので、部会の意見は提出した文書に十分反映されているはずだし、コンサルも議事録の作成など委員の意見も十分理解しているので、体系図や文書化の作業はそれほど困難ではないのではないかと意見を述べた。

もう一つは今後のスケジュールについて、2月20日に議会に議案送付しないといけないので、1か月半の肉付け作業やパブコメの反映を読むと12月末までに最終的な答申案を出してもらわないと間に合わないという事務局案が印刷物で配布された。これに対して会長から市長との約束は2月下旬に審議会としての最終答申を出すという約束をしているのであって、12月末という約束は知らないということで議論がなされた。

事務局はなぜそのようなスケジュールを出さざるを得なかったかという説明の中に、現時点での行政からの課題を反映させることを踏まえると事務局案のようにせざるを得ないという話があった。それでコンサルの使い方を含めて議論があり、私は12月末までのものは最終答申ではなく最終答申に向けた第1次答申案として位置づけて、それを踏まえて

肉付けやパブコメを反映させる作業をやって、2月15日前後の市長への答申が最終答申になると解釈したいと述べたところ、会長も事務局もそれが間違いだとは言わなかったということで、何となく会議が終わった。内容について違いはなかったにもかかわらず、表現をどう解釈するかで認識の違いがあり時間を使った感じがあった。あとは会長と事務局に任せてほしいという話で終わった。本報告に落ちがあったら事務局に聞きたい。

(木村企画財務課長) 大筋は浅井副部会長の言われるとおりです。私たちも最後がどういう結論になったのかが明確にはわからず、12月末までに仮かもしれませんが答申を出そうと思うと、相当行政あるいはコンサルに働いてもらわないとできないというところまでは会長に言われて、行政がしっかり働いてくれば、行政側の要請した12月末ぐらいまでに答申を出すことができる。審議会の思い通りに働かないと、どうしても2月にいくというイメージで受け取りました。

(浅井副部会長) 内容についてよく考えてみると大差はないというのが私の考えです。

(岡山部会長) 問題を整理すると、全体の中でどう進んでいくかは部会で審議することではないと思うので切り離したい。当初部会に与えられた作業は、部会ごとに市の将来都市像を作してほしいというのが会長の意見で、これが産業部会に課せられた義務だと認識している。これについては第4回までの皆さんの意見をまとめて提出した。それでなおかつ3つの仕事があって、基本理念、全体を含めた市の将来像、政策の分野別体系の作業をしないといけないが、その中の原案となる基本構想のうち将来像を部会が作ってきなさいと。これで私たちは4回を費やした。次は三役会かどういう会かわからないが、そこから市の将来像は3つの部会を統合するという提案をしてもらうのが順番だろうと思う。それについて今まで私たちがやってきた将来像に対して大きな違いがないのか、もう少しこうしたらいいという意見を出すのが今回の会議だと思っている。もう一つの役割の中の基本理念や政策の分野別体系、三役・部会長会議が作成するためそれについて意見を言うということなので、そのものが出てこない限り私たちは意見を言うべきことはないだろうと思っている。したがって10月31日の会合は将来像の原案と基本理念、政策の分野別体系を三役会のほうである程度方向性を出してもらって今回の会議になるという認識でいた。

(浅井副部会長) その点について部会の役割についての議論があったので報告します。報告の冒頭で、基本理念や政策の分野別体系に関わる部分は部会で作業してほしいということで、各部会でキャッチフレーズの絞り込みだとか

ニーズ表の評価の取り入れなど、三役及び部会長会合が担うことになっている基本理念と政策分野別体系の取りまとめの準備作業的依頼が会長からあったが、それに対して私は、部会としては2つあった宿題を2つとも終えたと考えているのに、更にそれに対して仕事が返ってくることは予想だにしていなかったという旨の意見を述べた。ここからは三役及び部会長会合で取りまとめるはずのものでこれが当初からの方針だと述べた。作業そのものを誰が担うのかについて、私はその作業は事務局主導の下でコンサルを活用したほうがいいのではないかと提案し、会長もそれはそうだと言われたので当初の方針に変化はないと思っている。

(岡山部会長) ここにも明確に書いてあることは、基本構想のうち「基本理念」と「政策の分野別体系」は三役・部会長会合がとりまとめ、とりまとめたものに対して意見を言ってほしいと明確に書いてあるが、それを提案がなくいきなり部会で原案を作れというのはちょっとおかしい。私が本来出席して言わなければいけなかったが事情により出席できなかった。部会への作業依頼があった件については、とてもそれだけのことをもう皆さんにお願いはできないし、分野別施策に対しての意見書をこちらで取りまとめるということは、今までにたくさんの意見が出ているのでそれを取りまとめればいい話で、私たちが文書化することについては、当初の約束と違うのでできないという話をしたところだが、そういうことを言っても現実に進まないの、会長と意見が違ふかもしれないが、私の独断で一度今までの経過を振り返って、それに基づいて産業部会が考える分野別の政策体系の原案を作してほしいと。そして今日はそのことについて目を通して、そこで意見があれば修正して会長のほうに送付したいと思う。今後のスケジュールは部会では掌握しきれないので、会長のほうでやってもらいたいと思う。今日は基本構想の骨子案の齟齬や事務局が作った分野別政策体系の意見書に齟齬があるかないかのチェックをしていきたい。10月31日の報告に対する産業部会の方法はそういう取り扱いにしたいがよろしいか。

(足立委員) 基本的には意見を出し尽くしてそれをコンパクトにまとめて、あとは事務方の仕事だと思う。だから今日は検証のつもりで来た。

(岡山部会長) 検証です。

(浅井副部会長) コンサルからのアウトプットの資料は皆さんに送付されたと思っているが、それを審議すると思っていた。それでよいか。

(岡山部会長) 基本的には10月31日開催の報告の内容について、産業部会としてはそういう対応することによろしいか。

～異議なし～

(岡山部会長) それに基づいて進めていくためには、本日は基本構想の骨子案と施策別体系の意見書(案)があるので、そのことについて検討を加えたいと思う。その前に市民アンケートとグループインタビューの報告をしてもらって、そのことも含めて全体の流れがこれでいいか、齟齬があるかないか検証したいと思う。

市民アンケート・グループインタビュー意見の報告

(岡山部会長) 市民アンケートとグループインタビューについて報告願います。

～事務局 資料説明～

(浅井副部会長) グループインタビューの対象はどういう視点で選んだのか。またインタビューに出席した人は誰が選んだのか。

(木村企画財務課長) 当初はグループインタビューに応じていただけるグループを募集しましたが、応募が少なかったので審議会委員の所属団体や市議会議員の方をお願いして、地元の団体を紹介していただき実施しました。各分野で落ちがないような形で実施しました。メンバーはこちらで指定できませんので、各団体で選んでいただきました。

(岡山部会長) 他に意見はありますか。

～質疑なし～

2. 基本構想原案についての検討

(岡山部会長) それでは基本構想原案についての検討に入ります。1番の項目の中でコンサルという言葉が出たが、これについての立場や位置付けを、全体は別として産業部会の共通認識を作っていきたい。事務局に質問するがコンサルは誰が管理してどのような体系になっているか。位置はどういう位置か。

(木村企画財務課長) 契約者は中津川市長とコンサルタント会社なので、管理は中津川市です。

(岡山部会長) そうするとこれはコンサルの意見だということはある得ないという考えで、それは事務局の意見ということで、少なくともこの会合ではコンサルは事務局に含まれているので、事務局という言葉で進めていいか。

(木村企画財務課長) 基本的にコンサルが作ったものは行政の責任で出すということになります。

(岡山部会長) 先ほどの報告でコンサルに作らせるという話があったが、責任の所在も明確にしないといけないので、コンサルと市と同レベルで扱うのか、コンサルは市の管理下にいるのかということになると、今の説明ではコンサルは事務局の管理下にいて使うべきだという認識か。

(木村企画財務課長)　そうです。

(岡山部会長)　そうだと事務局がというくくりで考えていいか。

(木村企画財務課長)　資料に誤りがあった場合、その責任はコンサルを使いきれなかった市にあるので、その位置付けからすると市はあくまで発注者ということになります。

(岡山部会長)　この部会ではコンサルという言葉が出たとしても、あくまで事務局の管理下だということで、事務局がコンサルを使おうがこちらで関知することではないという認識で進めていかないと、文書の中でこういう問題がいくつか出てくるのでそこだけ明確にしておきたいと思います。産業部会ではそういう共通認識で進めたいと思いますのでお願いします。私たちは将来像を出したので、それに対して三役会からここに返ってきたという認識でここに書類が出てきているということです。これに対して産業部会で話してきたことと、大きな齟齬がないか落ちがないかについてチェックをしたいと思います。骨子案について説明願います。

～事務局資料説明～

(岡山部会長)　基本構想の施策別体系について私から事務局に原案を作るよう指示し、副部会長にもチェックしてもらっているので、その辺りについて副部会長から全体の感想をお願いします。

(浅井副部会長)　私の印象では審議会の意見を9割以上正確に反映できていると思う。ただ微妙なニュアンスが違っていて、例えば6ページの分野別施策体系の農林業振興のところ、境界の明確化は抽象的な表現になっているものの大体鷹見委員が主張していたところが反映されていると思うが、ちょっとニュアンスが違うと思うところは、移住定住の「あり様を教えてもらう」というのはニュアンスが違って、「中津川市のあり方への助言提言をしていただくなど」というニュアンスです。その他で大事なこととして、移住定住推進の最後の2行で、わかったようでわからない面があって、なおかつ具体的でない面があったので、事務局に意見を言ったのは「地域の活力を維持し」というところを「市外から見て魅力のある」としてはどうかというのと、「地域に根差した事業所の育成」を「地域に根差した特色ある事業所の育成」にすると座りがいいかもしれないと思ったのと、2行の間に地域という言葉が3回も出てくるので、私はこんなにこじんまりと市内にまとまるということはニュアンスとしてちょっと違うと思った。私は以前にも高付加価値の医療社会、福祉、介護ということをやったので、「地域産業」を「未来型産業の振興」にしてはどうかということをやった。体系図については以上だが、事務局にまだ伝えていないことで3ページ4ページのめざすまちの姿というところ

で、こうするともっといいのではないかという意見をあとで述べるのでお願いします。

(岡山部会長) 将来都市像について意見ををお願いします。

(足立委員) まとめはしっかりできていると思う。将来都市像のA案、B案はうまくできている。

(鷹見委員) 境界明確化だけではなくて、それが親から子へ伝わっていないのでわからなくなっている。そのところの文章がどうだろうと思うが、これで網羅されていると思う。まとめると思う。

(安藤由美子委員) 内容についてはいいと思うが、言葉ばかり先走っていて、これにどう向かっていくかわからない。それは部会の仕事ではないかもしれないが。

(岡山部会長) それはこの次の体系図にいくわけですね。

(足立委員) キャッチフレーズはこれしかない。

(安藤由美子委員) 元気が出るような言葉だいいと思う。

(岡山部会長) 1ページから3ページの中で共通していることだが、これから10数年をみたときに、人口が必ずしも増えるという要素はないとなると、このことに対する対応をもう少し厳しい目で織り込んだ言葉が必要ではないかと思う。現実をとらえた文章が必要ではないかと思う。それから3ページの産業のところでは恵北地域とあるが周辺部に変えてほしい。それから農林業だけでは地域は生きていけないので、複合的なコミュニティの維持も大事なことになるかと思う。農林業の後継者がしっかり確保されれば地域は元気になるかというところではないだろうと思う。周辺部からすると存続をしっかりしていく姿を作っていくことが大事で、そのためには農林業が主になるが、周辺部を含めた産業の育成をしないといけないと思う。

(浅井副部会長) 全体的な感想は安藤由美子委員と同じで、いろいろとがった部分があったのに非常にまろやかになってしまった印象がある。感想としては委員の感覚は市民の感覚とそれほどずれていないことを確認できて安心した。A案、B案があるが、私はA案が能動的であるのに対してB案は静的でじつととどまって自然にそのようになっていくというニュアンスになってしまっている。そうではなくて人口は増えないかもしれないが、みんなが生きいきと未来へ向かって生きていきたいという意味ではA案のほうがニュアンスが出ている。あらためて標語を考えてみたが、産業部会はこのままでいいが、防災・環境部会の「人・水・緑」の順番で、最初に「水・緑」があつて次に「人」がいい。

(岡山部会長) 今日は他の部会までいっていいのか。全体会議で言うべきことだと思う

が。

(浅井副部会長) 三役会合のアウトプットを我々がチェックしているという意味では、産業部会関連のアウトプットだけではなくて、できるだけ早めにほかの部会のところの意見を言っておいた方がいいと思う。これは産業部会の一員の意見という程度でもいいと思う。水や緑があつてはじめて人が輝くというストーリー性があるので、「水・緑・人が輝く」にした方がいいと思う。それから(3)に「多くの子供たち」とあるが、これは2行目の冒頭を「夢あるまち」にした方がいいと思う。これは子供をテーマにしているので、この標語を3つ見たらわかると思うが、どれくらい「活気」が出てくる。とがったところを残すというのは、メッセージとしてはインパクトがあると思う。だから標語としても同じ言葉を繰り返し言葉遊びをやっているという感じをなくす意味も含めて、「夢あるまち」ぐらいのほうがいいかもしれない。

(4)も「みんなが安心して」ではなくて「みんなで安心して」にしたほうがいい。「いきいきと暮らせるまち」の「と」を取ってしまう。「いきいき暮らせるまち」のほうが耳にすっと入りやすい。それからふたつの文例については下に書かれている文例の方がいいと思う。「住み慣れた地域で」を取ったほうがいい。移住定住から考えると、以前から住んでいる人だけが快適に暮らせる「住み慣れたまち」となってしまうので、移住してきた人は住み慣れていないので、そういう意味でとってしまってもいい。逆に「心豊かな」のあとを「開かれたイメージ」にして、よそから来る人に対しても開かれた心豊かなところだと言ったほうが我々の議論したニュアンスが出てくると思う。書かれたその思いを大事にしないといけないので防災・環境部会が納得しないというのであればそれはそれでいいが、一度話をしてみたいと思う。

(岡山部会長) 人口減少の課題があるのに、それを取り残したまま夢あるまちをやっていくことについて、何らかの形で補う必要があると思う。もう一つは財政の問題があつて、鈴木委員から冒頭からずっとできることとできないことを明確にすべきだという話があつたが、その都度私は次のときに考えるべき問題だろうということで、一緒になってしまうと混乱を招いてしまうので次にしてほしいと言いつけてきたが、鈴木委員は財政のことは厳しくなると言いつけていた。厳しくなるということはここであえて言うことはないと思うが、それがなくても元気で行けるというあり方は、やはり人が気持ちの上で、与える行政から住民がつくる行政へ変わっていくと思う。ここが転換期に来ていると思う。このことももう少し全体に入れてもいいと思う。財政という立場をうまく活用しながら、人の気

持ちで自分たちの地域は自分たちで守ろうと、自分たちで作っていいというニュアンスがいると思う。今までは行政が引っ張るのについていけば何とかなったが、住民が自ら考えて生きる方法を「めざすべき」の中に織り込む必要がある。その意味でA案の方がいいと思う。どうしてもこれから10年を考えたときに人口減少は避けて通れないのでその対応と、厳しい財政が予測されることについて、そのために何をしないといけないかを「めざすまち」の中に工夫してもらったかどうかと思う。

(足立委員) 農林業のことがずっと謳ってある。やはり農林業はそうであるかもしれないが、やはり企業で製造業というか。

(岡山部会長) 地域としてもう少しコミュニティというのをやらないと。

(足立委員) 複合的な経営になってしまうかもしれないが、何かその辺のことを入れておくべきではないかと思う。

(鷹見委員) 兼業農家がほとんどで専業農家が少ないので、そういうことをどう入れるか。

(安藤由美子委員) 3番の「多くの子どもたち」の「多く」に意味があるのかどうか。「子どもたち」だけではだめなのかが引っ掛かった。「多く」というとかえって範囲が狭くなると思う。それと「恵北地区中心の農林業」というより「全体の農林業」とした方がいい。

(岡山部会長) 周辺部という言葉にするかを共通認識にしたほうがいいと思う。

(安藤由美子委員) 確かに恵北地区は中心になるところだと思うが、周りにも農地を持っているので。

(浅井副部会長) 周辺部という言葉はそこに住んでいる人がいかなものかと思うことはないのか。自分たちが中心部だと、それを周辺部と言うのかという人も中にはいるかもしれない。

(安藤由美子委員) 余分なことを言わずに「農林業」だけでもいいのかもしれない。

(岡山部会長) 「恵北」という言葉だけ部分的な地域になるので省略してください。今、全体的なコメントが出たが、事務局でのコメントの集約はできるか。

(木村企画財務課長) 集約できます。

(岡山部会長) 産業部会として総括的な意見として文書でここを直すとは言えないが、今日の意見の内容を参考にしてもらって、確認まではできないが提出することよろしいか。

～異議なし～

(浅井副部会長) 先ほどの「恵北地域」に関連するところで、例えば「産業間の連携を図りつつ」という言葉をどこかに入れるということと農業の6次産業化なども反映して、具体的にはそういうようなことを検討してもらえるといい。

- (岡山部会長) 細かい文章的なことは部会長に一任することによろしいか。
～異議なし～
- (岡山部会長) これが本当は産業部会で最終結論として報告することだったと思っていたが、更に産業部会が考える分野別の体系についても少し意見を述べよということなので、事務局から今までの打合せ過程を踏まえてまとめをしてもらったので、まずこの基本構想の体系図はどういうもので、分野別体系とはどんなものかを事務局から説明願います。
- (木村企画財務課長) 基本構想の体系図はプラモデルを例にとると設計図のようなもので、以前皆さんに配布した行政の考える現状・課題・取り組み方針は部品のようなものです。それを組み立てるとこういう将来都市像ができる。もしくは将来都市像が決まったらそのまちを作るにはこういう設計にして部品を張り付けるというイメージを持っていただくといいと思います。分野別体系は大きな骨組みの中から細かなところへ入っていくものになります。
- (岡山部会長) 基本構想体系図についてはこれだけのことです。分野別体系についてそれぞれ意見をお願いします。農林業関係が一番活発な意見が出ていたので、農林業関係はこれでいいかどうかをお願いします。先ほど浅井副部会長が6次産業に関連して、良い言葉を言われたが。
- (浅井副部会長) 「産業間の連携を図りつつ」です。
- (岡山部会長) そういう言葉を農林業は使ったらどうか。
- (足立委員) 「担い手の確保、」
- (浅井副部会長) 「担い手の確保や産業間の連携を図りつつ」というように続けていくといいかもしれない。あまり細かい表現までコメントするとやりにくくなるかもしれないのでお任せするが。
- (岡山部会長) 林業はどうか。
- (鷹見委員) このくらいでいいと思う。
- (岡山部会長) 観光はどうか。
- (安藤由美子委員) 体験型観光という言葉を使ったかどうか。
- (足立委員) グリーンツーリズムだと思うが。
- (浅井副部会長) 深く議論はしなかったが、出た記憶はある。やっぱりこれからは体験型かなと言われた方がいたと思う。
- (足立委員) これでよくわかると思う。
- (安藤由美子委員) 中津川市はそれほど開発しなくても和菓子で十分いけると思う。これほどいい観光資源はないと思う。全面的に出すのはそれでいいのではないかと思うが、開発でいいと思う。
- (岡山部会長) 商業振興については今日鈴木委員はみえないが、例えば新町跡地やにぎ

わい広場は具体名をあげる方がいいのかどうか。

(鷹見委員) 名称は挙げない方がいいかもしれない。

(岡山部会長) 他の分野で具体名を挙げているか。

(木村企画財務課長) ここまで明らかに物事を指した物の言い方はなかったと思います。

(岡山部会長) もう少し抽象的に公共施設の活用という言い方はいいと思うが、ほかもあればこれはこれでいいが、何か意図ある言葉に聞こえるのでもう少し抽象的に。

(浅井副部会長) 12年先のことを考えると、あまりにも近未来の話。

(足立委員) 恵北地域を除いたのと一緒に、これも固定しない方がいい。

(岡山部会長) 商業振興は中心市街地と周辺地域の連携だと思うが、その部分は言葉として足らなくて、むしろ新町ビル跡地とかそういう部分的なことではないような気がする。商業振興のあるべき姿は、中心市街地は中心市街地としてしっかりやっていって、周辺地域は周辺地域としてコミュニティ維持のための商業施設としてしっかり支援するべきだというのがここであっていることのような気がする。そのためにどうしていくかということだと思う。ちょっとそこが今の商業振興のあり方とよく似ている。それをやれば振興になるということがここにも出ているような気がする。ちょっとそこに手を加えたらどうか。

移住定住はどうか。

(浅井副部会長) 既に事前に送ったコメントがきちんと反映されているのでこれで十分だと思う。

(岡山部会長) 製造業振興については、「地域資源活用産業」とか「地域産業」という言葉を入れないと、周辺地域からすると農林業との連携の中でも必要になってくるところがあるので、「地域産業の振興」を入れないと全体の振興につながっていかないと思う。例えば周辺地域だと地域に根差した産業しかないで、これの振興を図らない限りは一瞬に衰退してしまうと思う。このことはずっと今までも言ってきたことなので、ぜひその点を入れてほしい。それと特に製造業に対してはこれから新しいものに対する取り組みにチャレンジすれば、やはりチャレンジ精神を支援していくというのは、これから産業界の大事な位置付けだと思うので、これは地域産業も同じことだと思う。というように後ろは新しい切り口でもっと企業の支援をしていくということだと思う。1番は「地域産業の振興」を入れて更に「起業を促すための施策を講じていく」ということでないかと思う。

添付してある各部会の考える将来都市像の一覧の課題に向けた取り組みがここに抜き出してあるわけか。

(木村企画財務課長)　そうです。

(岡山部会長)　基本構想の体系図と分野別施策の体系については、部会で意見を述べろということで、取りまとめまで要求されていないと思っているので、あとは全体の中でどう修正されるかは別の問題ですので、あとほかの部会の部分で意見があれば参考としてお願いします。

(浅井副部会長)　ある意味で感心したのは4ページの一番下の文例で、これはまさにユニバーサルデザインのコンセプトである。特に年齢や健康状態、障がいの有無に関わらずというあたりは、ユニバーサルデザインの理念そのものです。将来都市像に向けた小委員会の品村委員との意見書に書いたが、偶然かそれを意識してかはわからないが、福祉・医療と意見が一致しているというのは大変うれしい。

(岡山部会長)　運営については今後副部会長で打ち合わせしてもらえということなので、これで第2号議案の基本構想骨子案についての検討ということで、基本構想の骨子案と部会の考える分野別施策に対する意見の取りまとめということで聞いてきましたが、かなり中途半端な意見がたくさん出ていたが、事務局が取りまとめでわからないところや理解に苦しむところがあったら今のうちに質問してもらえれば。

(木村企画財務課長)　今、3ページ、6ページを審議していただきましたが、将来都市像を作るために各部会で議論されたことを相当集約してこの文章になっていますので、答申をいただくにあたって議論の過程を行政側にしっかり足跡として残しつつ投げかけておかないといけないのかなと思い作成しました。よければ答申の後ろでも添付して、こういうところを行政側で汲み取って考えてほしいということで、作りは浅井副部会長にアドバイスをいただいて作成しました。

(岡山部会長)　こういうところでは新町ビル跡地とかにぎわい広場という言葉が出てもいい。先ほど言ったことが意見としてここに出てくるわけですね。

(浅井副部会長)　先ほど私がこれで結構ですと言ったのは、意見書案を見て移住定住が反映されているから結構ですと言った。前に郵送していただいたのはまだ反映されていないが。聞こえのいい言葉は逆にメッセージがはっきりしていない。だからメッセージが見える形のほうが理解されやすいと思う。

(岡山部会長)　先ほど言った意見はこの中にも一部入れてもらおうという考え方でいいか。

(木村企画財務課長)　先ほどの皆さんの意見もちちに盛り込みます。

(岡山部会長)　そういう観点からいくと、先ほどの新町ビル跡地のような具体的なものはここでも出てきてもいいと思う。ここは反対に活かした方がインパクトがあると思う。

- (足立委員) 3ページの農業振興の中の1番目「農業振興の課題」として、「農地は観光価値としての保全」という文面はおかしいと思う。「農地は観光価値もあり国土保全の役割があることを意識されたい」と言いたかった。
- (鷹見委員) 林業振興のところで、「保育と環境林の整備が遅れている」とあるが、ここに「国土調査の遅れている地域によって整備が遅れている」というかそんな言葉もどうか。それと2ページのところでさっきの文章には書いてあったが、「境界」を「森林の境界」というように明確にしてほしい。それから「されていないことによる」を「森林の継承がなされず森林整備の」と入れてほしい。
- (岡山部会長) アバウトな話から分野別の体系を一般の方が見たときに、どこでもあるようなという認識が多分出てくると思うが、意見書が同時にあってこれを読んでもらうとこれに至る経過がわかるということで、このことについては事務局の中でこういうものをまとめようという意見があったとしたら、私はそれを評価したいと思う。こういう意見書を求められているわけではないでしょ。
- (木村企画財務課長) 行政内部で求められているわけではないです。事務局の判断です。
- (岡山部会長) そういう意味で意見が流れてしまってもどこかへ消えてしまう恐れがあるというところに対してこういう形で文書化して、リアルな言葉で議論されたということを行政にも認識してもらうために、こういうものを作ろうという気持ちになった事務局に対しては一定の評価をしていいと思う。
- (浅井副部会長) そのとおりだし、更に期待したいのは市民への公開で、審議会の審議の様子は基本的には知る権利に対応するということもあるかもしれないが、公開が原則になっているので、誰が何を言ったというまとめる前のものも価値はあるかもしれないが、このように整理した形で、結論としては基本構想の骨子でいいと思うが、更に詳しく知りたい人はホームページをクリックして見れるような活用ができていともっといいと思う。アンケートの中にちょっと気になったフリーコメントがあって、市長が変わって図書館の件以外は何も新しいものが見えて来ずに、頭を使うようなことは市民にアンケートを取ったりグループインタビューのようなことをやって、知恵を市民から集めようとしているというコメントがあった。私はそれに対して審議会がこれだけクリエイティブな意見を出して審議していることで納得してもらえと思う。そういう意味でも誤解を受けるようなところは表現を工夫しないといけないが、そうでない部分は市民にも開示していったらいいと思う。
- (岡山部会長) 意見書について落ちがあったら10日ほどの間に事務局に言ってもらって、なければ細かいところは部会長に一任してほしい。そして私が副部

会長に委任したいと思うのでお願いします。これで終わりたいが、今後の予定だけ共通認識を作っておきたい。全体の運営については副部会長の会合で決めていくことになっているので、各部会が同じようなことを行くと、一回取りまとめをして全体会議をやってもらって意見の集約を図ってもらいたいと思うが。

(浅井副部会長) 流れとしては今日6人会からまとめたものが提示されて、それに対して意見をとられない限り意見を述べることはできないなど。しかし部会長から今日はそれがこれだとみなして意見を述べてほしいという話があった。だから6人会で各部会から上がってきたものを一度眺めてもらって、あと次の審議会に向けて直接準備をすることもできるのではないかと思う。副部会長会議を開いても今のよう意見が出ると思うが、副部会長会議を開いて出してもいいが、基本的には事務局が9人の会議で議論になった計画表の中での11月下旬に第2回の審議会という案になっているので、12月末に実質的な最終に近い審議会としての答申案まとめるとすると、やってやれないことはないような気がする。全体会議に向けての整理に注力したほうがいいと思う。それは部会長から6人会のメンバーに話をしてもらうのがいいと思うが。

(岡山部会長) 私としては事務局を通してやって、あとは全体会議の中で進めていきたいと思う。基本的には細かいことがあれば一任をいただくし、そうでなければまた会議は原則としてやらずに、部会としてはこれで終わる方向でよろしいか。

～異議なし～

(岡山部会長) 細かいことは部会長に一任してやっていきたいと思うのでお願いします。最後に私が今回取りまとめをしていく中で、これを実際に実現していくために予算がついてくるが、そこで薄れてしまうような気がする。例えばこういうものがちゃんとされていくかどうかある程度意見が言えるような仕組みを12年間どこかで維持していく必要があるという気がしないでもない。それは必ずしも多くの人数でなくてもいいが、仕組みの中で工夫してもらう提案をしたい。

(浅井副部会長) 私も賛成だが、それは逆の意味でも必要だと思う。産業界では10年を超える計画は途中で変更があるのが大前提で、世の中がどんどん変わっていく中で現実と合わなくなってくる恐れがある。そういう場合にどう対処するか考えておかないといけない。それは今までの総合計画はどのようななされてきたか。

(木村企画財務課長) ご指摘のところで一生懸命総合計画をつくりませんが、印刷して皆さんにお配りした後は棚に入れてあるというところが往々にしてありま

す。

(浅井副部会長) 見直しして部分的修正だとかメンテナンスしないまま飾ってあるというとか。

(木村企画財務課長) 基本構想は飾ってあるところは多いですが、実施計画は3、4年スパンなので、そこは見直しがかかっています。

(岡山部会長) 例えば実施計画のときに意見を聞くということでもいいが、何らかの形で検証する仕組みを作るべきだと思う。10何年かの間にはトップも変わっていくこともあるかもしれないが、そういう人に対してもこういう姿勢で臨んできましたということは伝えていく、それは行政でもできないことなので、それは民間レベルで伝えていく必要があるのではないかなと思う。せっかくこれだけやってきたものに対しての責任を作っていくべきだと思う。どこかでこういう仕組みを入れていくことも意見書の中に入れる必要があると思う。

これで部会を終わるがよろしいか。

～異議なし～

(岡山部会長) 5回の部会をお付き合いいただきありがとうございました。お礼申し上げます。産業部会を終了します。

午後4時42分 閉 会

平成25年12月20日

産業部会長 岡山 金 年